

今、子どもたちが危ない！

小さくて弱い子どもたち

子どもは体が小さく、体格や体力などでは大人より劣っているといえます。犯行をたくらむ大人たちは、相手に比べて自分が優位に立てば、抵抗されたり反撃されたりする確率は低くなると考えます。このような理由から、小さく



て弱い子どもたちはねらわれやすいのです。

下校時、一人きりが危ない

全国で多発する事件を思い出してみてください。事件の多くは、下校時(午後2時)から夕食時(午後6時)にかけて発生しています。そして、そのとき子どもの目撃情報がほとんどないことから、「一人きり」であったことがわかります。

集団で登校する朝に比べて、どうしても帰りの時間が異なってしまう下校時から夕方にかけての時間帯。子ども

が一人きりになった学校からの帰り道などを、犯人はねらっているのです。

私たちがすべきことは

さて、小さくて弱い子どもたちを守るため、一人きりにさせないためには、いったいどのようなしたらよいのでしょうか。現在、市や学校、地域では、子どもを守るために、さまざまな取り組みを行っています。まずはそれらを知っていただき、そこから私たちのすべきこと、私たちにできることを考えていきましょう。

取り組み

田原市では…

防犯パトカー

皆さんは、青色の回転灯をつけたパトカーを見たことがありますか？田原市では、市民の皆さんが安心して生活できるまちづくりを推進するために、「防犯パトカー」を導入しています。警察官OBの方が市内全域を巡回し、子どもの安全はもとより、市民の安全を見守っています。

交通指導員

子どもたちの交通安全を守るために、各小学校区に「交通指導員」を配置しています。下校時の子どもたちを、事故だけでなく、事件などにも巻き込まれないよう、間近で見守っています。

児童クラブ

現在、市内7か所で実施している「児童クラブ」では、学校から帰っても誰も家にはない家庭(留守家庭)の子どもたちを預かっています。放課後、下校時だけに限らず、帰宅後も子どもたちが一人きりになるのを防ぐことができます。



市内を巡回している防犯パトカー
警察官OBの方と交通指導員さんが、子どもたちの安全を見守っています。